

拝見 宮城の底力

第1部 産業—現状ルポ 3



赤く色ついた宮城特産のイチゴ「もういっこ」。クリスマスの需要期に向け摘み取り作業は忙しさを増す。収穫は春がピークで6月まで続く＝亘理町吉田の「いちご団地」

輝く赤い実 復興の象徴

視察

いちご団地(亘理町、山元町)



「いちご団地」の今後の課題などを話し、亘理町の島田孝雄事務理事

強い意志で産地復活

東日本大震災の復興事業として整備された宮城県亘理町、山元町の「いちご団地」では11月7日の初収穫以来、真っ赤に実ったイチゴが連日摘み取られている。味の良さと定評のある地域ブランド「仙台いちご」は、粒が大きくみずみずしい。真新しいハウスに甘酸っぱい香りも放つ姿は、まさに復興の象徴に映る。シリーズ「拝見 宮城の底力」の第1部「現状ルポ」3回目は、収穫に弾みがつく「いちご団地」を訪れた。県庁の若手職員が、亘理町のイチゴ生産農家と、団地整備に取り組んだみやぎ理農協を取材。壊滅的な被害から立ち上がり生産再開にき着けた状況や、東北一のイチゴ産地として今後の課題を探った。

地域ブランド「仙台いちご」の産地として知られる亘理町と山元町。東日本大震災後、大型ハウスが並ぶ「いちご団地」が始動し、イチゴ栽培の復興が本格化した。

収穫初期を迎えた11月中旬、亘理町吉田地区にあるイチゴ栽培農家・穴戸孝行さんのハウス(30坪)を訪れた。朝からの好天でハウスの内気温は20度以上。緑の葉、白い花、赤い実が目に輝き、ハウス内は甘い芳醇

「ほろほろ」な香りに包まれている。初夏を思わせるハウスで穴戸さん、栽培ベンチの間を縫うように歩き、大粒になったイチゴを摘み、そこから肥料の入った養液がイチゴの苗に与えられる。この栽培方法は高設栽培と呼ばれる。いちご団地への地面ではなく、この新しい設備が導入された。

亘理、山元両町はもとも温暖な気候であり、さらに沿岸部の砂地がイチゴ栽培に適していると、理由で、東北最大規模のイチゴ畑が広がっていた。しかし、大震災の津波によって95%の面積が被災した。穴戸さんのイチゴ畑も例外ではなかった。

「これはゼロからのスタート。失敗は許されぬ。穴戸さんを筆頭に、すべてを取り除き、もう一度産地を復活させる。初めの経験で、くじかずに、山元のイチゴを待ち続けていた地域の消費者に届けたい。イチゴを作りたいたい。生産者は必死だ。」「栽培再開を応援し、励ましたための方々の恩返りのためにも、イチゴを作り続け、「仙台いちご」のブランドを守りたい」と、島田事務理事は強調する。

(宮城県統計課主事・大内章平)

見えてきた課題

生産者は震災ですべてを失い、ゼロからのスタートだったにもかかわらず、2年9月、「いちご団地」での初収穫までたどり着いた。

北海道市場では、宮城県からの出荷が需要に追いついていない状況だが、出荷量は震災前約3000トンの7割まで回復する見込みだ。東北一のイチゴ産地復活に向けて復興が前進していることを強く感じた。

しかし、明い話ばかりではない。5年後にはハウスのビルドアップ費用や、現在無償で貸与されている土地の購入費用も必要となるなど、イチゴを栽培する農家の将来への不安は大きい。若者の中には将来への不安から農業を断念する人が少なくないという。宮農への不安を克服

宮農の不安 払拭を支援



イチゴ生産農家の穴戸孝行さんに取材する宮城県職員。鈴木懸喬さん(中)と大内章平さん(左)

宮城県食産産業振興課主事・鈴木懸喬

生産者への不安を払拭する。それが、宮城県に与えられた使命の一つである。大規模化、高度化を検討する生産者も多いが、そうした先進的な取り組みにはさまざまな不安も伴う。その不安を軽減し、競争力を高めるため、競争相手の農業の再生支援を推進すること、今以上に活力ある農業を

県は現場の声を傾け、生産者の課題を把握し、より適切なサポート体制をつくること、が重要だ。主役である生産者の意欲と、行政のサポートが合致することで復興という大きな課題に立ち向かうことができる。

実際、いちご団地の整備には国の復興交付金が活用され、生産者のかたがイチゴを生産したいという意志と行政のサポートがうまく一致し、短期間でこれだけの成果を出すことができた。

国内有数のブランドを確立した「仙台いちご」は、「いちご」と宮城が関係した「もういっこ」の2大品種でほぼ構成される。取材を通して感じた生産者のブランドに対する熱い思いと、行政の役割の重要性を胸に刻み、復興の力となるよう頑張っていくべきだ。

シリーズ「拝見 宮城産業の底力」は本年度内に6回の掲載を予定しており、来年3月まで原則として毎月第1日曜日の河北新報に掲載します。来月からの第2部は「対談」編で、宮城の産業再生の在り方を展望します。企画は河北新報社企画事業部、協力は宮城県。

自動車保険に、世界No.1ブランド “アクサ”の安心を。アクサダイレクト。



Point 1 アクサグループは 世界No.1

グローバル・ブランドランキング
保険ブランド 4年連続 世界No.1

※1 アクサ損害保険株式会社(アクサダイレクト)はアクサグループの一員です。
※2 Best Global Brands 2009-2012(インターブランド誌) 2012年10月2日現在より

Point 2 事故対応顧客満足度 92%

事故受付は、24時間365日。
24時間365日電話1本で事故受付完了です。

チーム体制で手厚くスピーディーに事故解決。
電話はもちろん、訪問・面談対応も。

※3 当社事故対応サービスご利用者アンケート結果「満足」～「普通」の合計(2011年回答数14,368件 自社調べ)
※4 訪問・面談対応は必要に応じて行います。

Point 3 大きな安心が、この保険料で。

たとえ…
ホンダフィット 車両保険付き年間保険料 29,420円

車両保険なしの場合 年間保険料 16,520円

さらにインターネット割引でお得!

(各保険料の算出条件) ●30歳未満車主 ●ホンダフィット(E9) ●初年度登録2011.4 ●年間予想最大走行距離5000km ●ゴールド免許 ●使用目的: 日常レジャー ●20等級 ●運転者年齢条件: 30歳以上 ●補償 ●運転者指定: 夫婦限定 ●対人賠償: 無制限 ●対物賠償: 無制限 ●人身傷害(搭乗中のみ補償): 3,000万円 ●無保険車傷害: 2億円 ●盗難者傷害: 1,000万円 (医療保険金・部位・状況別) ●保険期間: 2012.12.1 契約条件・上記保険料は一例です。

Point 4 無料^{※5}ロードサービス

アクサダイレクトのアシスタンスサービス

レッカー、バッテリーあがり、ガス欠、24時間365日

パンク時のタイヤ交換、キーとじ込み、宿泊・帰宅費用、サービス開始前9,600円(2012年8月1日現在)

※5 各種無料サービスには、所定の条件があり、一部実費が必要な場合があります。詳しくは、インターネット・当社ホームページをご覧ください。

まずはお電話で、無料お見積り!

0120-989-218

受付9:00-22:00(土・日・祝日も受付) 平日14時-17時は、お電話が比較的つながりやすい時間帯です。携帯・PHSからもOK。 受付番号 6492

かんたん3ステップ 1 保険証券・車検証・免許証をご用意ください。 2 上記フリーダイヤルへお電話ください。質問にお答え頂くだけで、保険料がわかります! 3 後日、お見積書をお届けします。じっくりとご検討ください。

※インターネット割引には所定の条件があります。●この広告はアクサダイレクト総合自動車保険の概要を説明してあります。●ご契約の条件・形態・前契約の事故件数等によっては、契約をお引受けできない場合があります。●お客様の情報については当社プライバシーポリシーに則り、適切な管理・利用および保護をしております。●詳しくは当社ホームページ・重要事項説明書等をご確認ください。 AT2718-12Y2431 〒111-8633 東京都台東区南2-1-13 徳業ビル

アクサダイレクトのペット保険 受付時間 10:00-18:00 (土・日・祝日除外) 0120-880-535

アクサダイレクトのバイク保険 受付時間 9:00-22:00 (土・日・祝日除外) 0120-989-218

アクサ損害保険株式会社 redefining standards